



仙台初売りの起源

「仙台初売り」が、いつから始まったのかはっきりとした記録はありませんが、藩政時代の文化文政年間（1804～1824年）に発行された「仙台中行事」という書物に、「2日朝早くから店の格子戸を叩いて初売り初買いい…」という記述が残っています。そのことから、当時すでに仙台藩のみならず広く藩外にも知られた行事であったことがうかがえます。

藩政時代から続く伝統行事

「仙台初売り」へ行こう！

1月2日実施と なった経緯

「仙台商人の心意気でおもてなし」

仙台が全国に誇る伝統文化「仙台初売り」が、2023年も1月2日から一斉に開催されます。200年以上の間続くと言われる伝統文化で、全国的にも珍しい、街をあげて実施する市民の買い初め行事。また、商業者にとっても、お客さまの日頃のご愛顧に感謝し、1年の商売繁盛を願う大切な行事です。2023年も、街やお店でさまざまな催し等が用意されていますので、ぜひ足をお運びください。



「元日の掃除は福を掃きだし、買い物はお金を吐き出し、1年の浪費につながる」という言い伝えもあり、商業者や消費者の多くは、元日に「事」を始めることを避けていました。さらに、日本では、1月2日は「初夢」や「書き初め」など、「年始事始め」の吉日とする考えがあります。このようなことから、仙台商人は1年の変わりらぬご愛顧と謝恩の心意気をもって、豪華な景品を準備し、1月2日に「仙台初売り」を実施してきたのです。1849（嘉永2）年の「仙台中行事大意」にも、日が昇る前に出掛けて買い初めを楽しんでいたという記載があり、売り手・買い手ともに、2日の買い初めが正月の習慣となっていたことが分かります。

仙台だけに

認められた特例

「国が認めるほどの特別な行事」

毎年、仙台初売りは、豪華景品等を求める多くの買い物客でにぎわいます。こうした景品類は本来、国の取り決めで商品価格の10%までと上限が定められていたのですが、仙台では20%まで景品の提供が認められていました（現行法では全国一律20%）。これは、仙台初売りが「歴史ある商習慣に基づくもの」という理由で、公正取引委員会から、正月三が日、旧仙台藩地域に限り認められた特例です。このように、古くから続く伝統文化である「仙台初売り」は、200年以上の時間を経た今もなお受け継がれ、国内最大規模を誇る「初売り」として国内外から注目を集めています。



今年の初売りの様子。正午ごろに人がピークとなり、商店街全域で多くの買い物客の姿が見られた(2022年1月2日、ハピナ名掛丁商店街)。

仙台初売り実施店および各商店街では、安全・安心に買い物いただけるよう、徹底した感染症対策でお迎えする準備を進めています。お越しになる皆さんも適切な感染症対策を行った上で、新年の買い初めを伝統の仙台初売りでお楽しみください！

※本特集に掲載している内容は11月25日時点の情報です。新型コロナウイルスの感染拡大状況などにより、開催内容等が変更となる場合があります。最新情報は、仙台初売り公式ホームページもしくは12月26日発行の河北ウィークリーせんだい「仙台初売り特集号」でご確認ください。

仙台初売り公式ホームページ <https://sendaihatsuuri.com>

